

LOBO 調査

早期景気観測

4月 日商調査日 4月6日～17日
当所調査日 4月6日～19日

LOBO調査とは

全国各地の商工会議所が参加して、日本商工会議所が実施する全国規模の早期景気観測調査。当所ではさらに、商工振興員の皆さまにも調査へのご協力をいただき、より地域に根差した調査を実施。

日商調査

3月の全産業DI ▲16.7
(前月比+0.2ポイント好転)

○中小企業の景況感

都市部を中心に民間工事が堅調な建設業に加え、4月上旬の寒波の影響により例年に比べ花見期間が長くなり、客数が増加するなど、インバウンドを含めた春の好調な観光需要を取り込んだ宿泊・飲食業を中心とするサービス業の業況が改善した。

○マイナス要因

受注が減少した半導体や産業用機械、自動車関連の不振に加え、深刻な人手不足の影響拡大や根強い消費者の節約志向、原材料費の高止まりの影響を指摘する声は依然として多い。

○先行き

先行き見通しDIが▲18.4(前月比▲1.7ポイント)と悪化を見込むものの、改元を契機とする個人消費の拡大や10連休に伴う観光需要拡大への期待感がうかがえる。

○課題

人手不足の深刻化や原油価格を含む原料費の上昇、コスト増加分の価格転嫁の遅れ、貿易摩擦の激化、世界経済の動向、消費増税の影響など不透明感が増す中、先行きへの慎重な見方を崩していない。

【関東ブロックの業況についてのコメント】

好調な民間工事を背景に建設業からの受注は多く、売上は増加している。一方で、人件費や物流費、原材料費上昇の影響は大きく、採算が十分に確保できない(建設資材卸売業)。

消費者の節約志向は根強く、特に10連休を前にして、客の財布のひもが固くなっているように思われる。観光需要の取り込みを図り、今後の売上増加につなげていきたい(各種商品小売業)。

住宅リフォームなどの民間工事を中心に受注は好調。ゴールデンウィーク中でも、至急対応が必要な工事依頼がある可能性を考えると、10連休にはできない(建築工事業)。

【全国調査】

「全体平均DIは好転」

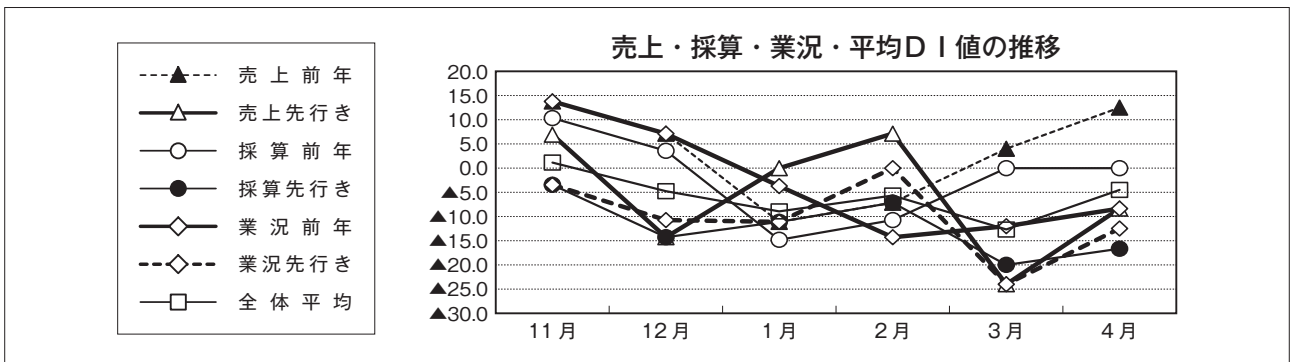
全体平均DIは▲4.5ポイントで、前月に比べ+8.2ポイントの好転。項目別では、前月と比較し売上先行きが+15.7ポイント、業況先行きが+11.5ポイントと大きく好転した。寄せられたコメントには「今年度から有給休暇の完全消化を目標にし、店舗の定休日設けた。それにより売り上げの減少が見込まれるが、従業員の環境改善を図っていく(食肉小売業)」という声が聞かれた。

(全産業)

水戸商工会議所商工振興員LOBO調査(DI値推移)

(サンプル数40社)

項目	平成30年			平成31年			
	4月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
売上前年	▲ 3.7	13.8	7.1	▲ 11.1	▲ 7.1	4.0	12.5
売上先行き	▲ 14.8	6.9	▲ 14.3	0.0	7.1	▲ 24.0	▲ 8.3
採算前年	▲ 7.4	10.3	3.6	▲ 14.8	▲ 10.7	0.0	0.0
採算先行き	▲ 18.5	▲ 3.4	▲ 14.3	▲ 11.1	▲ 7.1	▲ 20.0	▲ 16.7
仕入前年	▲ 25.9	▲ 44.8	▲ 32.1	▲ 37.0	▲ 32.1	▲ 56.0	▲ 25.0
仕入先行き	▲ 33.3	▲ 44.8	▲ 35.7	▲ 44.4	▲ 39.3	▲ 48.0	▲ 29.2
社員前年	25.9	27.6	21.4	29.6	14.3	20.0	25.0
社員先行き	22.2	34.5	25.0	25.9	25.0	32.0	20.8
業況前年	0.0	13.8	7.1	▲ 3.7	▲ 14.3	▲ 12.0	▲ 8.3
業況先行き	▲ 7.4	▲ 3.4	▲ 10.7	▲ 11.1	0.0	▲ 24.0	▲ 12.5
資金前年	▲ 7.4	6.9	0.0	▲ 18.5	▲ 7.1	▲ 8.0	0.0
資金先行き	▲ 14.8	▲ 3.4	▲ 14.3	▲ 11.1	3.6	▲ 16.0	▲ 12.5
全体平均	▲ 7.1	1.1	▲ 4.8	▲ 9.0	▲ 5.7	▲ 12.7	▲ 4.5



※DI値(景況判断指数) = (増加・好転等の回答数 - 減少・悪化等の回答数) / 全回答数 × 100。ゼロを基準として、プラス値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものでなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりや意味するもの。